

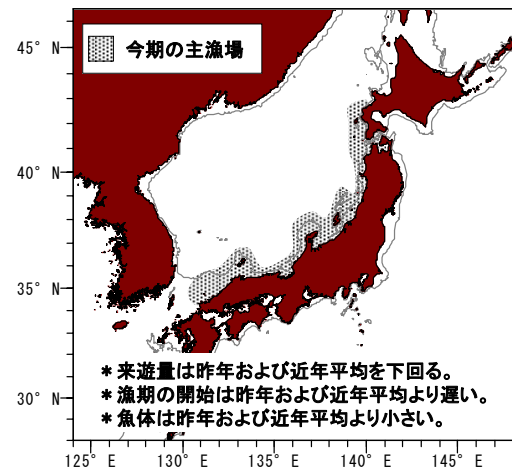
## 平成22年度 第1回 日本海スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2010年5月～7月)のポイント

対象魚種：スルメイカ  
対象海域：日本海  
対象漁業：主にいか釣り漁業  
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：昨年および近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：昨年および近年平均より遅い。
- (3) 魚体の大きさ：昨年および近年平均より小さい。



\* 近年は最近5年間(2005年～2009年)

### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 香川、今井

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

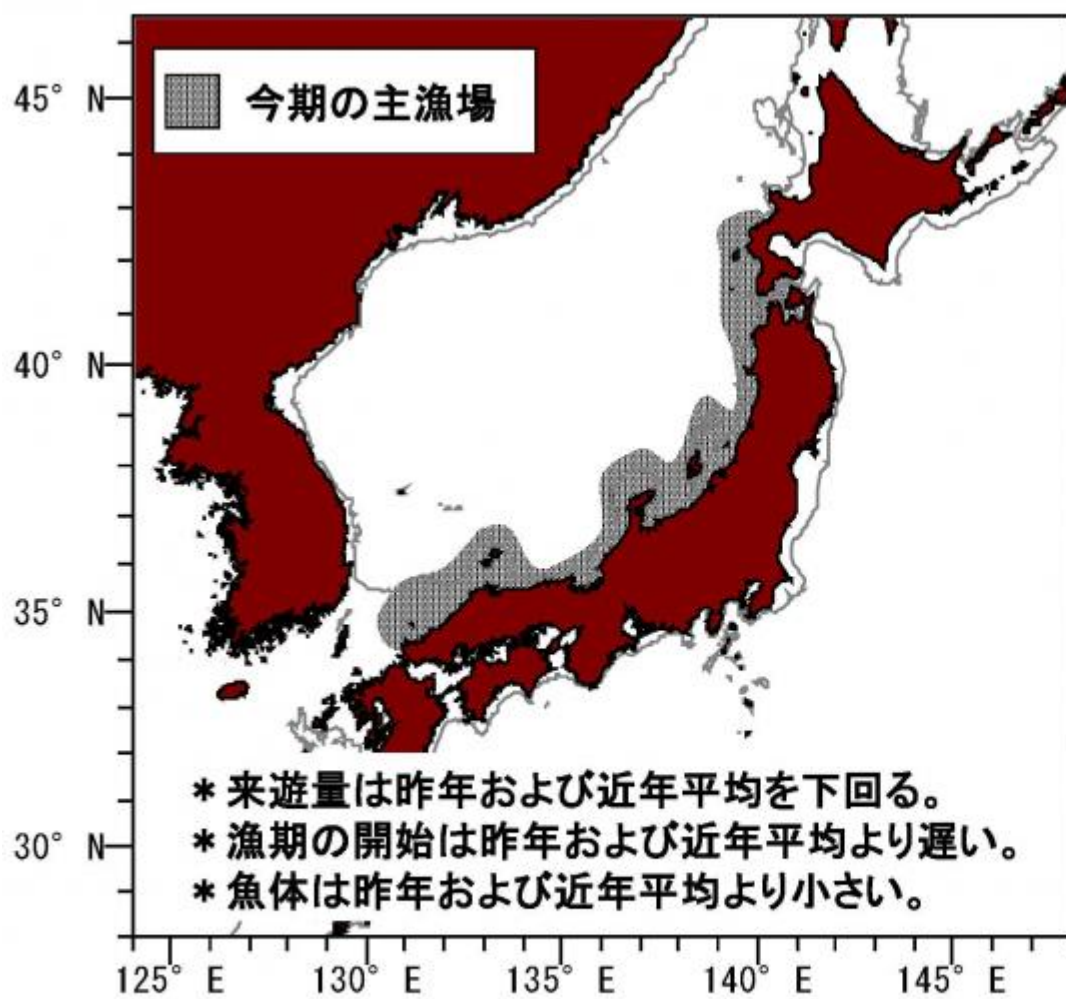
独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



# 平成 22 年度 第 1 回 日本海スルメイカ長期漁況予報

## 今後の見通し（2010 年 5 月～7 月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：昨年および近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：昨年および近年平均よりも遅い。
- (3) 魚体の大きさ：昨年および近年平均より小さい。

\* 近年は最近5年間(2005年～2009年)

## I 漁況予報

日本海におけるスルメイカの資源調査結果（2009 年 10 月～11 月の日本海スルメイカ稚仔分布調査、および 2010 年 4 月のスルメイカ新規加入量調査）と漁況の経過を主要な情報として、今期（2010 年 5 月～7 月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予測した。

### 【予測】

今期（2010 年 5 月～7 月）の日本海におけるスルメイカの漁況について、来遊量は昨年および近年平均を下回ると予測される。また、漁期の開始も昨年および近年平均よりも遅く、魚体も昨年および近年平均よりも小型と予測される。

### 【情報】

- (1) 2010 年 4 月に実施した幼スルメイカの調査結果では、今期に漁獲加入すると予測される外套背長 5cm 以上のスルメイカの分布量は、昨年および近年平均よりも少なかった。
- (2) 2010 年 4 月の日本海西部の水温はやや低めであり、今期間は「平年並み」で推移すると予測されている。
- (3) 2009 年 10 月～11 月のスルメイカ幼生の分布調査結果では、幼生の分布密度は 1990 年代以降の水準を維持しているものの、かなり低い値であった。
- (4) 2010 年 3 月のスルメイカ漁獲量は近年平均を下回った。4 月も低調に推移している。

## II 説明

### 1. 調査結果

#### 1) 4月におけるスルメイカの分布状況

いか釣り漁業では外套背長 15cm 以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、漁獲対象前のスルメイカ（主に外套背長 2cm~10cm）の分布状況を事前（4月）に把握することで、今期の漁況を予測することが可能になる。

2010年4月に実施したスルメイカの新規加入量調査<sup>\*1)</sup>結果（図1）では、1調査点あたりの平均採集尾数は18.6尾であり、近年平均（42.9尾）および昨年（81.29尾）を下回った（図2）。さらに、今期の漁獲対象となる外套背長5cm以上のスルメイカでは、1調査点あたりの平均採集尾数は2.0尾であり、近年平均（16.7尾）および昨年（17.7尾）を大きく下回った（図2）。したがって、今期のスルメイカの来遊量は昨年および近年平均を下回ると予測される。

\*1) 新規加入量調査：口径10m~12mの表層トロール網を用いた採集調査。各調査点で3ノットで30分間曳網して実施。

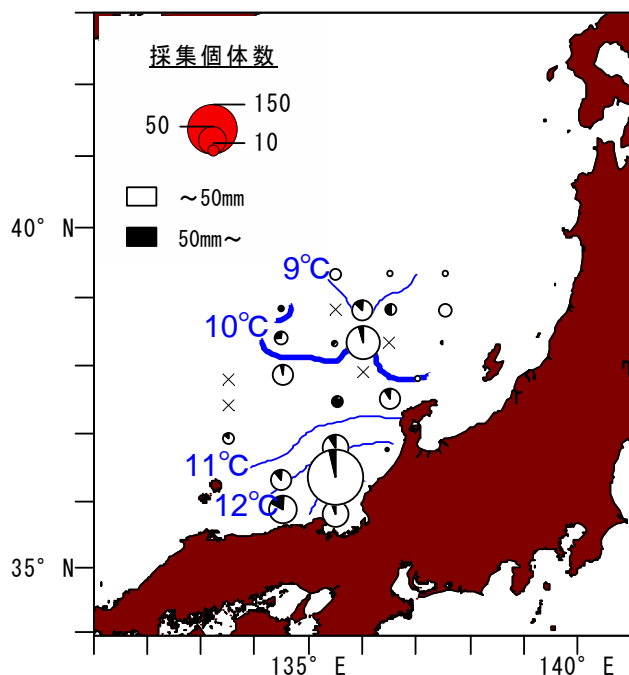


図1 2010年4月の表層トロールによるスルメイカの採集調査結果（○の面積は採集尾数、×は採集されなかった調査点）。表面水温分布を併せて示す。

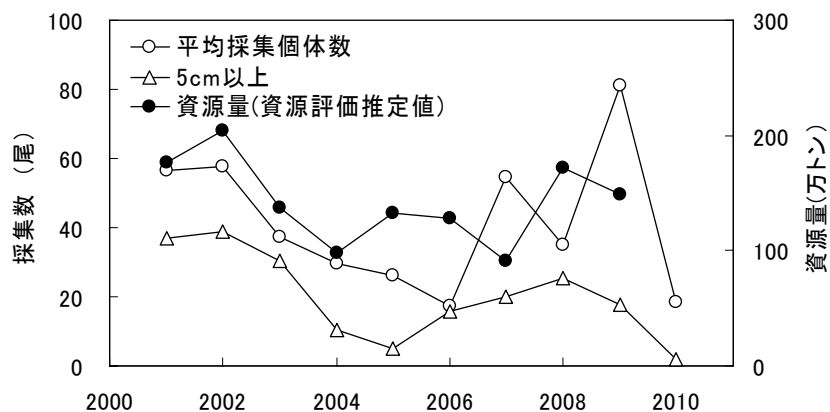


図2 表層トロール調査による平均採集尾数の経年変化

## 2) 昨年秋のスルメイカ幼生の分布量

日本海では5月下旬～10月に前年の秋～冬に生まれたスルメイカが主に漁獲される。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は、日本海へのスルメイカの来遊量を予測する資料となる。

2009年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査<sup>\*2)</sup>では、隠岐諸島および対馬海峡付近を中心に採集され(図3)、1調査点あたりの平均採集尾数は1.24尾であった。この結果は、2008年の調査結果(1.01尾)を上回り、1990年代以降の水準は維持していたものの、近年(2004年～2008年)平均(1.69尾)を下回った(図4)。

\*2) 幼生の分布調査：口径45cmのプランクトンネット(網目0.33mm)を用いた採集調査。各調査点で水深150mまでの鉛直曳によって主に外套背長1～3mmのスルメイカ幼生を採集する。

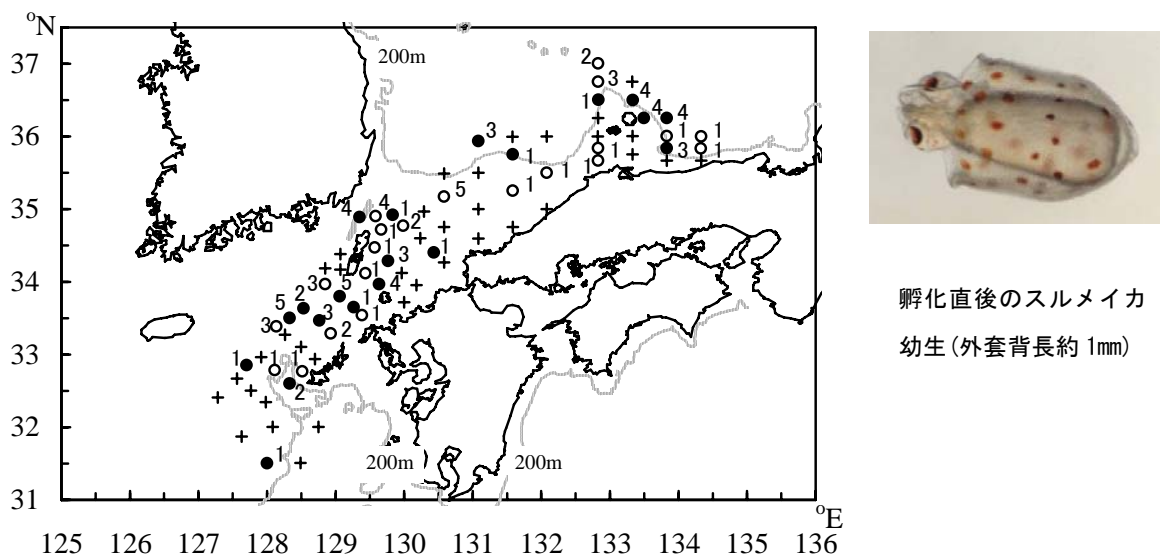


図3 2009年10月～11月におけるスルメイカ幼生の分布調査結果

○幼生が採集された調査点、●孵化直後の幼生が採集された調査点、+幼生が採集されなかった調査点、  
図中の数字は各調査点における採集尾数。

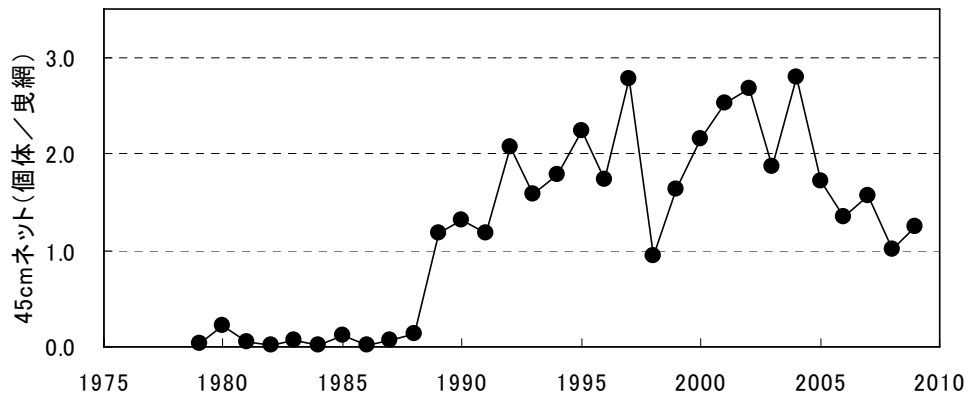


図4 スルメイカ幼生の1調査点あたりの平均採集尾数の経年変化

## 2. 日本海における海洋環境

平成 22 年度 第 1 回 日本海海況予報<sup>\*3)</sup>によると、3 月の表面水温は日本海西部の沿岸付近で「やや低め」、水深 50m 深水温は日本海西部および北部とも「平年並み」であり、今後は表面水温および水深 50m 深水温とも「平年並み」で経過すると予測されている。

なお、4 月の新規加入量調査時の表面水温は隠岐諸島北沖から大和堆南部沖にかけて 10℃台となっており、昨年よりも 2℃～3℃低かった。

\*3) <http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/kenkyu/yohou/H22yohou/yohou20100407.pdf>

## 3. 日本海におけるスルメイカ漁況の経過

日本海では、1 月～3 月は主に冬季発生系群が漁獲されるが、3 月中・下旬以降は春～夏に生まれたスルメイカが漁獲対象となり、山陰以西を中心に予報期間の前半（5 月）まで漁獲対象となる。

2010 年の西部日本海（福井県～長崎県）の漁獲量は、1 月および 2 月は 2009 年を上回ったが、3 月は 2009 年の半分程度となった（図 5）。図 6 は境港の旬別漁獲量であるが、4 月も 3 月同様に低調に推移している海域が多い。

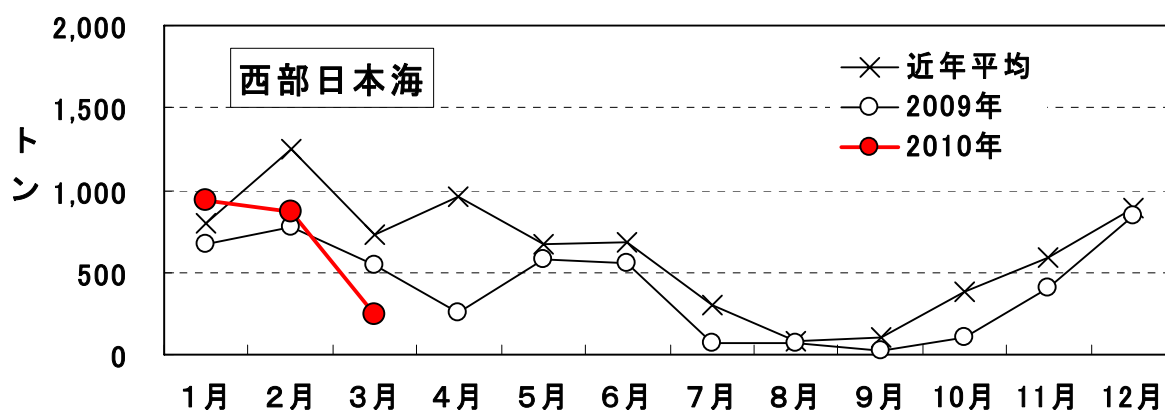


図 5 西部日本海（福井県～長崎県）における生鮮スルメイカの月別漁獲量  
各試験研究機関集計による各主要港の漁獲量

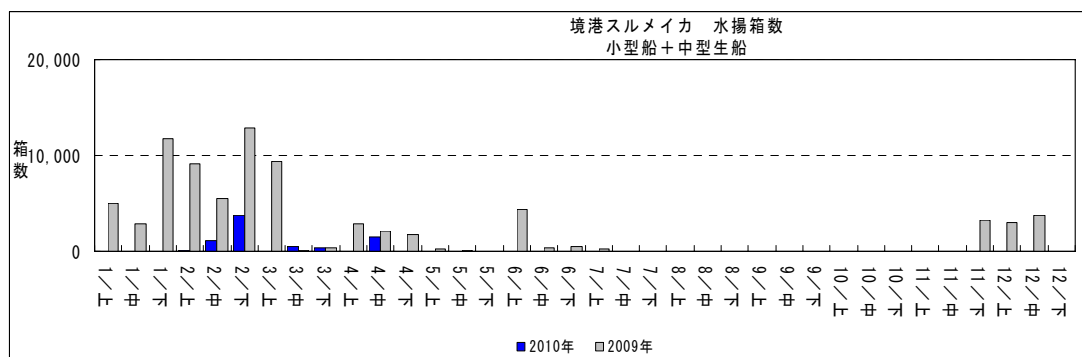


図 6 鳥取県（境港）におけるスルメイカの漁獲量  
鳥取県水産試験場のホームページ

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=72009> より

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	鳥取県水産試験場
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	島根県水産技術センター
山形県水産試験場	山口県水産研究センター
新潟県水産海洋研究所	長崎県総合水産試験場
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所 東北区水産研究所 日本海区水産研究所
京都府農林水産技術センター 海洋センター	